

令和5年度病害虫発生予報第6号（9月）

令和5年9月1日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量は平年並 中生の主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量は平年並が多い	± — ±～+
	紋枯病	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない 9月の降水量は平年並が多い	— ±～+
	トビイロウンカ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	コブノメイガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	フタオビコヤガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	吸実性カメムシ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	＋

・防除対策

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

8月下旬の巡回調査において、斑点米カメムシ類のうちイネカメムシの発生量が多い状況です。周囲のほ場でイネカメムシの発生が多い場合は、ほ場の発生状況をしつかりと確認しましょう。防除対策は、8月18日発表の「斑点米カメムシ類情報第3号（イネカメムシ）」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

幼虫の寄生を確認したら8月18日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考に防除しましょう。

〔ダイズ・オオタバコガ〕

幼虫の寄生を確認したら本日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考に防除しましょう。

〔ダイズ・吸実性カメムシ類〕

本日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

ダイズほ場に設置したフェロモントラップのシロイチモジヨトウが多い状況です。8月18日発表の「病害虫発生予察注意報第8号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± ＋
	チャノキイロアザミウマ	やや少ない	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 8月下旬の被害果率はやや少ない 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± － ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 8月に強風を伴う降雨があった 9月の降水量は平年並か多い	－ ＋ ±～＋
	モモハモグリ ガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	うどんこ病	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	－
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯における誘殺数はやや 多い フェロモントラップにおける 誘殺数はやや少ない	＋ －

・防除対策

[ウンシュウミカン・黒点病]

ジマンダイセン水和剤、ナティーボフロアブルなどで防除しましょう。

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

ダニオーテフロアブル、ダニコングフロアブルなどで防除しましょう。

[ブドウ・べと病]

早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋期防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

[カキ・炭疽病]

スコア顆粒水和剤、トップジンM水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

モモせん孔細菌病が一部地域で多発しています。収穫後の秋期防除を行い、越冬伝染源量を減らしましょう。

果樹カメムシ類がヒノキ林等から離脱を開始する時期です。ほ場を確認し、発生状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期は成虫発生ピーク時です。表を参考に適期防除を実施しましょう。

表 アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第6世代	8/24	8/24	8/19	8/20	8/26	8/25	8/23	8/23	8/29	8/22	第4世代 8/18
第7世代	9/11	9/12	9/6	9/7	9/14	9/12	9/11	9/10	9/18	9/9	第5世代 9/10
第8世代	10/5	10/7	9/26	9/28	10/10	10/7	10/3	10/2	10/15	10/1	第6世代 10/15

各地のアメダス平均気温から予測。9月1日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	前年 11 月下旬の発生量はやや少ない 9 月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	8 月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8 月下旬の発生量は平年並 9 月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9 月の気温は高い	＋ ＋
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	キャベツでの 8 月下旬の発生 量は多い フェロモントラップにおける 誘殺数は多い 9 月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9 月の気温は高い	＋ ＋

・防除対策

[キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ]

キャベツ及びハクサイは、育苗期後半や定植時に粒剤や灌注処理剤で防除しましょう。
ダイコンは、は種時に粒剤などで防除しましょう。

定植後はトルネードエース DF やアニキ乳剤などで防除しましょう。

[野菜共通・ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ]

中齢以降の幼虫では薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。

ハスモンヨトウは 8 月 18 日発表の「ハスモンヨトウ情報第 2 号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

シロイチモジヨトウは、8 月 18 日発表の「令和 5 年度病害虫発生予察注意報第 8 号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

オオタバコガは本日発表の「オオタバコガ情報第 2 号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

・留意事項

アブラナ科野菜の黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は、降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合は発生が助長されます。強風を伴う雨等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。

8月18日発表の「コナジラミ類情報第1号」も参照してください。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、7月下旬の巡回調査で炭疽病の発生が多い状況でした。育苗ほで炭疽病の発生がある場合は、発病株はもちろん、発病株の周辺にある株は症状が無くても処分し、絶対に定植に使用しないようにしましょう。防除対策等については、8月1日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考にしてください。

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多いほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い 9月の降水量は平年並か多い	± - ±～+
	白さび病	平年並	山間部	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い 9月の降水量は平年並か多い	± - ±～+
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の気温は高い	- +
	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	+ +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	+ +

・防除対策

[キク・ハスモンヨトウ、オオタバコガ]

ハスモンヨトウは、プレオフロアブルやアニキ乳剤などで防除しましょう。

オオタバコガは本日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台8月31日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は、高い確率50%です。

降水量は、平年並または多い確率共に40%です。

日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 10% 平年並 : 10% 高い : 80%

〔降水量〕 少ない : 20% 平年並 : 40% 多い : 40%

〔日照時間〕 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%